

下関市吉母の砂浜で確認された
スナジクズタケ

古 熊 俊 治

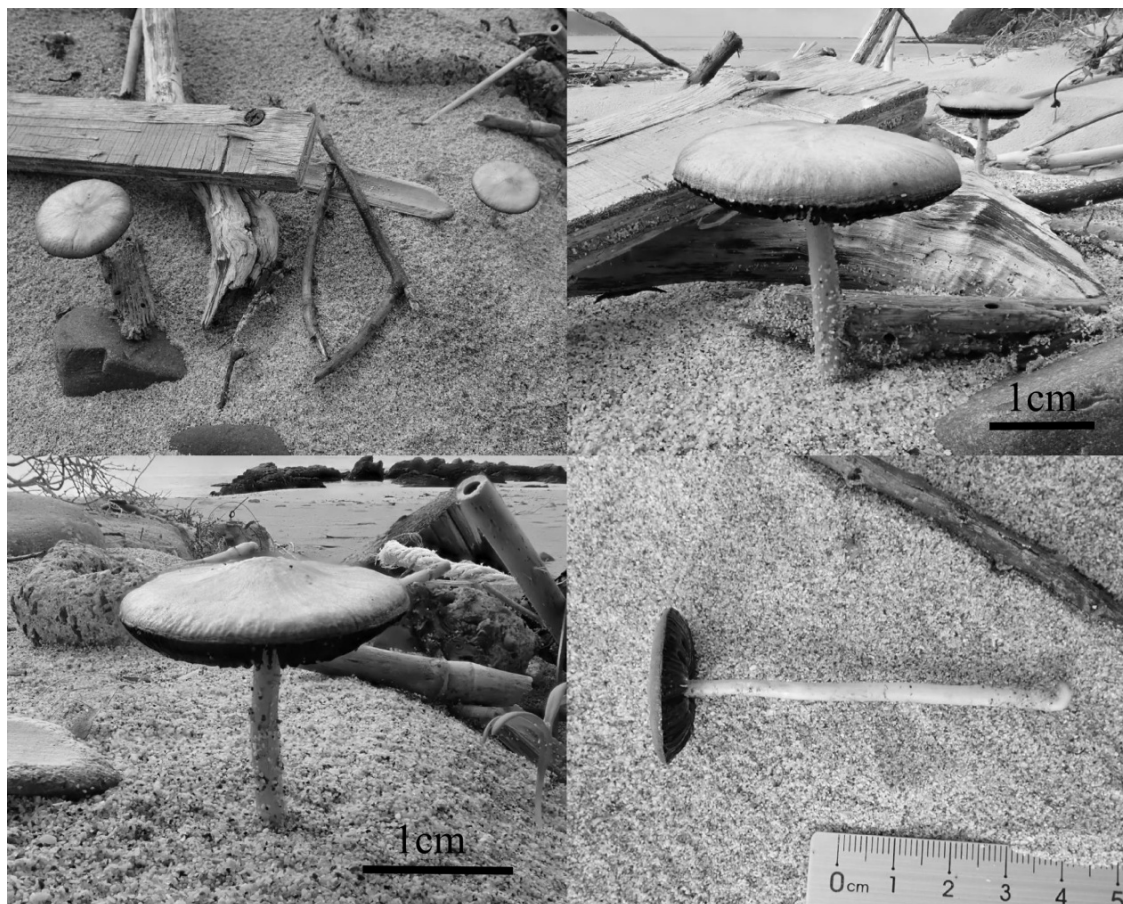
「山口県の自然」第85号（2025年3月）別刷

山 口 県 立 山 口 博 物 館

下関市吉母の砂浜で確認されたスナジクズタケ

古熊 俊 治¹⁾

スナジクズタケはナヨタケ科ナヨタケ属に属するキノコであり、子実体（キノコ）は海岸の砂丘に単独で生え、傘は褐色で模様はなく、腹面のヒダは縁が白い暗紫褐色をしている。また柄は根付かず下半分または 3 分の 1 が砂に埋まる (Kits van Waveren 1977)。日本全国に分布しているが、砂浜海岸が減少している昨今、茨城県、千葉県および和歌山県ではレッドデータブックに絶滅危惧や準絶滅危惧としてリストアップされている。本種が山口県下関市において確認されたので、県内の分布の記録として報告する。



図：下関市吉母の砂浜で確認されたスナジクズタケ

1) FURUKUMA, Shunji 〒759-0207 宇部市際波 409-24

・スナジクズタケ *Psathyrella ammophila* (Lév. & Durieu) P.D. Orton

【記録データ】

下関市吉母 (34.098127, 130.873088) (砂浜海岸)、子実体 2 個、2024-XI-24、古熊 撮影。

【県内既知記録】

萩市大井および萩市の笠山椿群生林から報告されている (川口 2016)。

【備考】

川口 (2016) の指摘にもあるが、大潮満潮時に大波がある場合に潮を被りそうな砂地に認められた。柄はまっすぐであり、砂を掘って確認したが、栄養をとるための朽木などは基底に存在せず、砂から生えた状態であった。

引用文献

川口泰史 (2016) 山口県産きのこ類の採集・確認目録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書. (8) : 21-163.

Kits van Waveren, E. (1977) Notes on the genus *Psathyrella*—V. The sections *Ammophilae*, *Bipellis* and *Subatratae*. *Persoonia*, 9: 199-231.